



Rotary

川崎大師ロータリークラブ 週報

会長 星野 祐治
副会長 八尋 匡彦
幹事 奥山 啓寛
SAA 布川 浩

例会日:毎週水曜日 PM12:30~
 例会場:大本山川崎大師平間寺信徒会館
 事務局:〒210-0812 神奈川県川崎市川崎区東門前1-15-10 カーサ石井1F
 Tel.044-277-7569 Fax.044-288-8550
 URL <http://www.kawasakidaishi-rc.com/> E-mail:daisi-rc.1973@air.ocn.ne.jp

第2369回 (本年度 第7回) 例会 令和5年8月30日 一晴一

●司会 布川 浩SAA



奉仕の理想 斉唱 須山文夫ソングリーダー



●点鐘 星野祐治会長



卓話者紹介 星野祐治会長
 川崎臨港警察署 署長 仲戸川 博幸様



会長報告 星野祐治会長

2023年7月秋田県豪雨災害支援募金 1口1,000円でご協力をお願いします。



幹事報告 奥山啓寛幹事



配布

- ①本日の卓話資料

回覧

- ②会員名簿 訂正ある方は訂正箇所を書き込み、訂正ない方はOKと記入ください。
- ③特定非営利活動法人 エミフル様より様より活動レポートをいただきました
- ④米山梅吉記念館秋季例祭の御案内が届きました

掲示

- ⑤ガバナーより公式訪問のお礼状
- ⑥国際ロータリー第2590地区 米山学友会総会案内

出席報告

町田喜江出席委員長

	会員数	対象者	出席	欠席	出席率
2369回	44	39	27	12	69.23%
2367回	44	39	19	20	48.72%
前々回の修正 メイクアップ 2名			修正出席率		53.85%

メイクアップ：林 鶴会員、猪狩佳亮会員



スマイルリポートの報告 八尋匡彦副会長



須山文夫会員

8月21日妻にきれいなお花、ありがとうございました。

矢野清久会員

仲戸川先生、本日は宜しくお願い致します。

牛山裕子会員

今日の卓話を楽しみにしておりましたが、親友が日本商工会議所から賞を受け、お祝い会がありますため残念ですが欠席致します。週報を楽しみにしております。

奥山啓寛幹事

仲戸川博幸様ようこそ川崎大師ロータリークラブへお越しくださいました。

本日の卓話、宜しくお願い致します。

八尋匡彦副会長

仲戸川様 本日は宜しくお願い致します。

星野祐治会長

川崎臨港署、仲戸川博幸署長様 本日は川崎大師ロータリークラブ例会にお越しくださり有難うございます。

例会卓話、楽しみにしております。

宜しくお願い致します。

本日のニコニコのテーマ

「仲戸川博幸様ようこそ川崎大師ロータリークラブへお越しくださいました。

本日の卓話、宜しくお願い致します。」

平位 武会員	清水 暁会員	松井昭三会員
布川 浩会員	原慎一郎会員	炭谷博功会員
秦 琢二会員	内田省治会員	猪狩佳亮会員
石渡勝朗会員	檜山雄彦会員	町田喜江会員
岩井茂次会員		

委員会報告

●フォローアップ委員会 竹中裕彦委員長



本日第2回目の研修&フォローアップ委員会が開催されます。6時～事務局で行います。

現在11名が御出席といただいております。お弁当の関係上、まだ間に合いますので、御都合がつくという方がいらっしゃいましたら例会終了後私の方までご連絡を頂ければ幸いです。

真面目な部分はまじめに、楽しむところは楽しんで運営していきたいと思っております。ご参加をお待ちしております。

卓話者紹介 平位 武プログラム委員長

卓話者：仲戸川博幸様

神奈川県警察 川崎臨港警察署署長 警視

平成元年（1989年）4月

神奈川県警察に拝命（入社）。勤続34年。

最初の配属は小田急 御殿場線 松田駅前交番で2年間。その後何か所か交番を経て刑事部捜査二課室長として特殊詐欺対策をされています。

その後捜査二課特捜センター署長、藤沢警察の副署長、本省に戻り、刑事部の暴力団対策室室長などを歴任され2022年3月に川崎臨港警察署長に就任されました。

経歴からもお分かりの様に、仲戸川署長は特殊詐欺の部署を多数歴任しておりますので、その経歴を踏まえた実践的で役に立つお話をお聞かせ願えるものと期待しております。

剣道にも造詣が深く矢野会員とは週に何度か剣道の稽古をやっているということをお伺いしております。またフルマラソンも2時間50分をきって走ると言う事ですので体力的にも抜群の方です。

仲戸川署長よろしく申し上げます。



卓話

神奈川県警察 川崎臨港警察署署長 仲戸川博幸様

川崎臨港警察署長の仲戸川です。

この度は川崎大師ロータリークラブでお話をする機会をいただき大変光栄に思います。

川崎臨港警察署は昨年の春からの勤務で、間もなく1年半を迎えるところです。この間、自宅から離れ単身生活をしているわけですが、この生活にも大分慣れたころ、どこかで剣道の稽古ができないかと考えるようになり、いろいろ探して飛び込んでいったのがロータリークラブの矢野様（剣道界では矢野先生とお呼びしている）が主催する剣道サークルでありまして、先生も快く受け入れていただきましたので、お仲間に入れていただき、以来週2、3回地元の皆さんと一緒に汗を流させていただいているところです。

本日は、「特殊詐欺対策」というテーマで、特殊詐欺の実態、人はどうして騙されるのか、そして特殊詐欺の被害に遭わないための対策や警察での取り組み、についてお話してまいります。

○川崎臨港警察署管内の治安情勢

せっかくの機会ですので、まず川崎臨港警察署管内の治安情勢についてお話をさせていただきます。始めに犯罪発生状況についてですが、令和5年7月末現在の刑法犯認知件数（被害届出数）は、340件と昨年同期比+107件となっております。この増加の要因は、自転車盗の増加（すでに136件の発生）があげられます。自転車盗の被害のうち一番多いものが自宅やマンション等駐輪場の被害で約40%、続いて商業施設等敷地内での被害となっております。自宅敷地内でもカギかける、できればワイヤー錠などを併用する二重ロックの習慣をつけていただきたいと思います。

次に、人身交通事故の発生状況ですが、本年7月末現在で116件の発生(+2件)、お亡くなりになられた方は1(+1人)、負傷者は144人(+18人)となっております。川崎臨港警察署管内の人身交通事故の特徴としては、自転車絡む事故が全体の約4割を占めています。県内全域では、二輪車、自転車、横断歩行中の事故が多く、高齢者や子どもの事故が増えている状況にあります。お車を運転される方は安全運転をされる中でも二輪車、自転車、横断歩行中の事故形態と高齢者と子どもという対象には特段の注意をしていただきたいと思います。

川崎区内は地形が平たんで、ゆえに自転車利用者が多いという特徴があります。川崎臨港警察署といたしましては、川崎警察署と連携を取りながら、自転車盗対策や自転車事故防止に向けたマナーアップにも重点を置いて取り組んでいるところです。

それではここから本題の特殊詐欺についてお話してまいります。

●特殊詐欺被害状況

まず、特殊詐欺の発生状況についてですが、今年7月末現在の県下全体の被害は、1,164件と昨年同期比+181件で、被害総額は約23億3,800万円と昨年同期比+約3億9,900万円となっています。当署管内では、7件（昨年同期比+5件）の発生、被害総額は約590万円となっています。内訳としましては、オレオレ詐欺が2件、架空料金請求詐欺が3件、還付金詐欺が2件という状況です。手口もいろいろ。様々な犯行グループから狙われている実態となっています。

●特殊詐欺対策

特殊詐欺の発生は、平成15年ころから認知されるようになってきていますが、なぜ特殊詐欺の犯行が続くのか？それは、『ローリスク・ハイリターン』の犯罪だといわれています。捕まるリスクは少なく、多くの犯罪収益を得ることができる特殊詐欺に、犯罪者は群がってくるわけです。

特殊詐欺は、犯行グループによって敢行されています。『首魁』といわれる主犯格を頂点に、『番頭』や『班長』がリーダーとして犯行拠点で架け子を管理し、実行役に指示を出しています。

犯行拠点の外では、現金を直接受け取る『受け子』や口座から現金を引き出す『出し子』が実行役となり、指示役から指示を受けて行動しています。この他、実行役がネコババなどしないか監視する『見張り役』、現金を回収する『運搬役』、実行役などメンバーを集める『リクルーター』などがいます。彼らはお互い同士を偽名で呼び合い、仮に末端の『受け子』や『出し子』が捕まっても、上層部への捜査を及びにくくしているのです。犯行グループは、トカゲのしっぽ切りをして自らの身を守るシステムを作り上げているのです。また、犯行グループとは別に、携帯電話や預貯金口座を供給する『道具屋』、名簿を調達する者や犯行拠点（アジト）を契約して用意する者などが関与しています。犯行ツールといわれる携帯電話や預貯金口座などは偽名で契約したり転売などが繰り返されているので、匿名性が高くなっています。これに対して警察も特殊な捜査を行いながら犯人を検挙しています。

人はなぜ騙されるのか。そこには「人の特性」が大きく作用しているといわれています。第一の特性として、『正常性バイアス』というものがあります。異常があっても日常の延長線上にあるものとして捉えたり、正常の範囲内だとの認識におさめてしまう人の心理をいいます。日常生活が常に安全だと思い込んでいる心理状態、災害時などで行動が遅れるなどというのも『正常性バイアス』が作用しているといわれています。

特殊詐欺の手口は知っていても、いざ自分のところに電話がかかってくると、これが異常なことだと気付かない。認識しない。ということになってしまうわけです。

第二の特性として、『確証バイアス』というものがあります。自分の思い込みや先入観を肯定するため、それを否定することにつながる不都合な情報を遮断しようとする人の心理をいいます。騙されている人の多くは、「あの声は息子に間違いない。携帯電話をなくしたと言っているんだから、息子の電話に架ける必要はない。」と、瞬されていないかどうか確認することを拒否する行動をとるようになります。特殊詐欺の犯行グループは、この人の心理をうまく使って、いろいろなストーリーを展開させているのです。

さらに『感情の喚起』を巧みに使って騙された状態を確定させていきます。例えば「不安や恐怖心」を煽って、冷静さを失わせる。「時間的切迫」を付け加えて、考える余地を与えない。などといったテクニックを使って攻撃を仕掛けてくるのです。

特殊詐欺の場合、いきなり騙しの電話なんて架けてくる間抜けな詐欺グループは存在しません。

オレオレ詐欺の場合、事前に『前兆電話』とか『アポ電』などといわれている予備的な電話を架けて、ウソの話に乗ってくる人を探していきます。「フルーツを送ったんだけど荷物届いた?」「カゼを引いてのどが痛い。」など、およそ特殊詐欺とは関係ない話がある日突然架けてきます。話しに乗ってくるようであれば、次の段階に進んでいきます。見破られれば、すぐ切って次の電話、次の電話と、話しに乗ってくる人が見つかるまで電話を架けまくっているのです。

その後の騙しのストーリーはいろいろあります。

「不倫相手を妊娠させてしまった。旦那にばれて訴えると言われてる。相手は堕ろすと言っているので、慰謝料も含めてお金を出してくれないか。」という騙しの電話。これを聞いた被害者は、息子が築き上げた会社での地位や奥さんにばれたら家庭崩壊になるなど思考を巡らす。

被害者は息子家族の平穏な生活を守るため、誰にも相談せずひた隠しにし、一目散に金融機関の窓口に向かい、特殊詐欺の被害にあっていないか確認する窓口職員には、「リフォームするのにお金が必要」などと用途先を偽って、お金を払い戻してしまう。。。

この他にもオレオレ詐欺には「鞆紛失に絡む小切手の補填名目」、「交通事故を装い示談金の支払いで逮捕を免れる名目」のストーリーなどがあります。

次に、「還付金詐欺」の場合を見てみましょう。役所の職員を装った者から「医療費の還付がありますが、通知文は届いていないですか。」と電話が架かってきます。

「今日中なら金融機関のATMで還付の手続きができます。。。」感情の喚起の時間的切迫を上手く組み合わせたストーリー展開に、被害者は無人のATMコーナーに誘導されます。ATM機の前で携帯電話で細かく指示を受けながら、必死に画面をタッチする被害者の姿があります。犯行グループは続けます「振込手続きできるので『お振り込み』をタッチしてください。あなたの預金口座に還

付金は振り込まれるので『キャッシュカード』をタッチしてください。振込はこの金融機関から行われるので『●●銀行』を選択してタッチしてください云々。。。。あなたの固有番号は498782です。」限度額の50万円に近い数字を言葉巧みに告げて振込手続きを完了させます。途中入力操作を間違えたりするとイラつく態度を取ったりするので、被害者の頭のなかは真っ白になり、画面のボタンが何を意味するのか気にとめず、相手の指示に完全に従う心理状態に陥ってしまうのです。中には手続きのやり直しを何度も指示され、気が付いた時には複数のキャッシュカードから現金が振替えられる被害に遭うケースも見受けられます。

『架け子』は犯行拠点に缶詰めにされ、ノルマなどの実績も厳しく管理されています。騙しの電話が成功しないと、犯行拠点のなかで見せしめが始まったりもします。だから、みなマニュアルを徹底的に覚えこみ、役者になり切り、必死になって電話を架けるのです。

「私は騙されない」などといった根拠のない自信で、自分の財産を守り切れるものではありません。「私は騙されるかもしれない」という用心をして犯行に備えることこそが大事であると思います。因みに我が家では、親には年金振込み口座だけを持たせ、その他は私が管理するようにしています。

このような犯行グループからの攻撃にどのように対処していくか、川崎臨港警察署における特殊詐欺抑止対策についてお話しします。

まず、川崎市と連携しながら『迷惑電話防止機器』の設置促進を進めています。

川崎市が無償貸与している迷惑電話防止機器、この機器を固定電話に取り付けることで回線上、電話機の呼び出し音が鳴る前に相手方に録音する旨の警告メッセージを流すもの。犯行グループは録音されることを嫌うのでこの時点で大抵は電話は切られます。川崎市内の警察署では川崎市と連携を取り、警察活動を通じて機器の設置を行っています。川崎臨港警察署ではこれまで263台を設置、市内8警察署では断トツの数となっています。この他高齢者宅に訪問した時などには、留守番電話機能付の電話があれば留守番電話の設定を手伝うなどして、物理的に詐欺の電話に出ないように取り組みも行っております。

また、高齢者の方々には、防犯講話を繰り返し実施し注意喚起を行っています。特殊詐欺の手口を紹介したり、詐欺電話の対処方法、不審電話があったときは家族に相談する、警察に知らせることをお願いしています。高齢者には繰り返し、様々な機会を利用して防犯意識の高揚を図るようにしています。

昨年には、管内の小学生に協力してもらって特殊詐欺注意喚起ポスターを作ってもらいコンクールを開催しました。生徒さんに描いてもらったポスターは、管内の大型スーパーや金融機関の店内に掲示してもらいました。孫の世代から被害防止を呼び掛けることで特殊詐欺に関心

をもってもらう取り組み、今年も実施する予定です。詐欺の電話（前兆電話）がかかってきたような場合には、「ウソの電話を見破ったから安心」ではなく、警察へ通報をお願いしています。この電話を警察が認知することで様々な対策を取ることが可能になります。防犯協会などと連携をしてパトカーや青パトを使って電話が架かっている地域に広報活動をして回ることが可能ですし、実行役が近くにいないか警戒活動も行うことができます。警察本部とも情報を共有し、特殊詐欺被害防止コールセンターからオペレーターを使って、電話による注意喚起をすることもできます。

最近特殊詐欺の犯行グループは『アポ電強盗』へと手口を派生させています。不審電話を見破ったことで安心しないでください、現金がそこにあると分かれば力づくで現金を手に入れようと手口も変化してきています。川崎臨港警察署では電話がかかってきたお宅に赴いて防犯診断や防犯指導を実施し、場合によってはしばらくの間パトロールも行います。こういったケアも怠らないようにしています。

特殊詐欺対策の最後の砦は、現金やギフトカードなど被害金品の調達場面での水際対策です。金融機関に対しては、一定額以上の現金引き出しのお客様に対する声掛けの実施と警察への通報をお願いしています。

またATM機設置の商業施設に対しては、電話を架けながらATM機を操作している方へ積極的な声掛けをお願いしています。さらにコンビニ店には、高額ギフトカードの購入者に対する声掛けをお願いしています。架空料金請求詐欺などの場合、高額ギフトカードを購入させ、そのカード番号などを聞き出して電子情報を騙し取る被害があるからです。

この他、少年を犯罪に加担させない取り組みにも力を入れております。

最近『闇バイト』という言葉をよく耳にするようになったと思いますが、これは特殊詐欺や強盗などの実行役をSNSを使って募集することです。高収入をうたい文句にしていますが、そもそもがバイトではなく犯罪行為。捕まるリスクの高い実行役は、報酬を受ける前に警察に捕まってしまうのが実情となっています。面接時に運転免許証などの身分証明証の写しを取られ家族構成なども聞き出されます。「辞めたい」と言い出せば、本人・家族に危害を加えると脅して、足抜けができないように仕向けるという危険性があります。

昨年1年間に特殊詐欺に係ったとして県警察に検挙された少年は78人で前年より28人増えています。中学生が11人、高校生が21人となっています。川崎臨港警察署では『闇バイト』の怖さを理解してもらおうと管内の中高生12人（高校1校、中学5校から代表者2人）に集まってもらい、『闇バイト犯罪加担防止サミット』を開催しました。話し合った内容を各学校に持ち帰ってもらい、同世代の声として犯罪にかかわらないよう犯罪加担防止の輪を広げる活動にも取り組んでいます。

○被害者の声

事件を担当する刑事は、被害者から被害届を取る一方で、悲痛な叫びを耳にしています。その一部を紹介します。

- ・1本の電話から、あっという間に大金をだまし取られてしまった。悔しいのと情けない気持ちで押しつぶされそうです。
- ・被害にあってから電話の音が鳴るたびに恐怖がよみがえる。詐欺の被害にあってから体調を崩してしまいました。
- ・お父さんが一生懸命働いて残してくれたお金を全て騙し取られてしまった。申し訳なくて一緒のお墓になんか入れないです。
- ・被害にあったことは家族には内緒にしている。いつバレてしまうか気が気ではない毎日を送っている。子どもたち家族が集まる年末年始なんて来てほしくない。

特殊詐欺は、被害者から財産をだまし取るだけでなく、心身を蝕む卑劣な犯罪なのです。

繰り返しますが、「私は騙されない」などと思わないでください。

特殊詐欺被害防止の第一歩は、「私は騙されるかもしれない」という用心です。どうか悲惨な被害者をこれ以上出さないためにも、家族や地域の絆を大切に、防犯意識を高めていただけたらと思います。

不審な電話が架かって場合には警察に通報することをお願いいたします。

謝辞 星野祐治会長

仲戸川署長様、本日はお忙しい中私ども例会に卓話者ということでお越しいただきありがとうございました。

本日はご紹介いただきまして、いま現在の状況の犯罪方法とか、現実的な臨港署。私どもが住んでいるところが臨港署管内ですので、本当に7件ということで、昨年から5件も増えているということで、身近にこういうオレオレ詐欺やそういうことが蔓延しているのかな？

先ほど聞いた中で子どもたちを集めての闇バイトも、一番闇バイトをさせないというのが特殊詐欺の下端をしない、そして詐欺自体を行動に移させないというのが一番基本なのかなと思います。こういう「これに参加すると大変なことになるのですよ」という啓蒙とかは、どんどんやっていただければと思います。

先ほどありましたが、家族構成などにおいて家族を脅かして抜けられないというのはよく聞いていましたが、実際にそういうことがあるのかと、先ほどの実状の被害者のお話を聞きまして本当に身に染みる思いでした。

自分がならないんだよ、とかではなく自分になったらとかという考え方で、自分の考えを改めて、私は絶対にそんなことが、オレオレ詐欺などに引っかかることはないだろうということではなく、自分の身を考えて親族からそのようにいわれたときに疑う余地なく信じてしまうのかなということもありますので、その辺を身をもって。私も父との会話がなくなるとかもございます。いま考えるとちょっと話をすればいいのかなとかいろいろあります。ほっておいてはいけないのかなという気にもなります。改めて家族との絆をあらためるような場所に、今日いただいたお題の中で連絡の取れる方は改めてお父さん、お母さん、親戚の方と連絡を取り合ういい機会になったかなと思います。今後も私どもも啓蒙活動等があればぜひ一緒にでも参加したいし、そういう話はまた改めて子どもたちの特殊なものに加担しないというところで、強い絆を皆でもって子供たちを守りながら地域を活性化していきたいと思っておりますし、地域を守っていきたくとも考えています。

どうぞまたよろしくお願ひします。

閉会宣言・点鐘 星野祐治会長

日時：2023年9月13日(水)は通常例会です。

卓話：「映像がかなえる夢」

川崎大師本通り商店会

副会長 松原 章浩 様



檜山 雄彦／八尋 匡彦／竹中 裕彦／大崎 克之